

- 未解明地域を中心に -

背景

- 東日本大震災以後、過去最大の津波を把握した上で防災・減災対策をすすめることが求められている。
- 北海道の日本海およびオホーツク海沿岸における津波履歴は、これまで不明であった。

成果

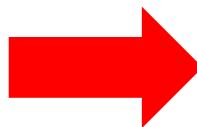
1 津波堆積物の分布と頻度を把握

- 確実な津波堆積物を、おもに檜山沿岸で発見。
- 奥尻島では、過去3000年間の地層中に5層の津波堆積物（下図、白矢印）を確認。

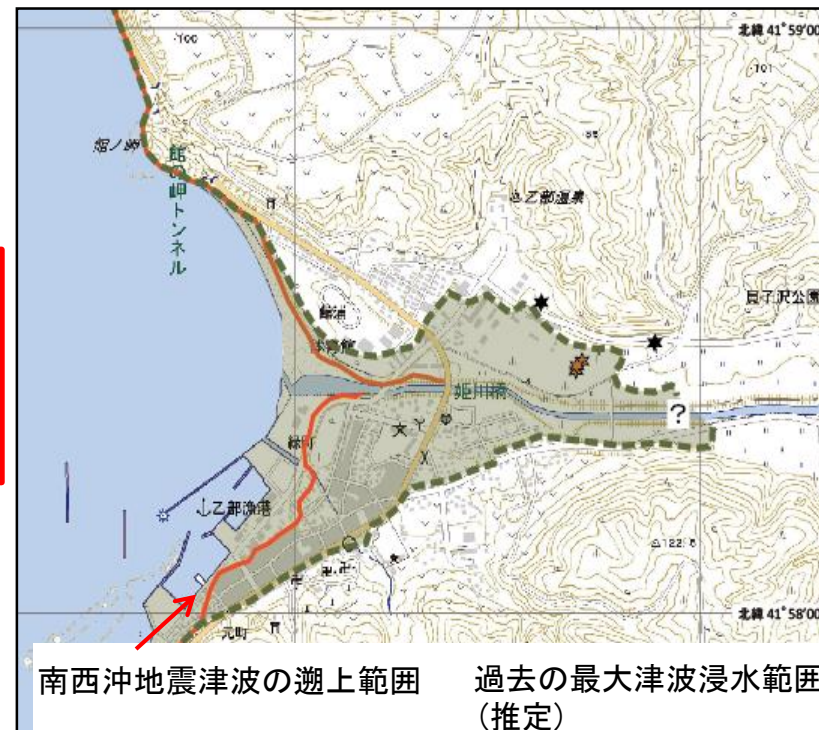


檜山沿岸は、過去800年間に2度*、1993年南西沖地震の津波を超える規模の津波に襲われたことを初めて明らかにした。

* 西暦1741年に発生した渡島大島の山体崩壊による津波、および13世紀頃に発生した津波



2 新たな津波浸水範囲を提示



成果の活用状況

- 国及び道において進められている津波浸水範囲予測の抜本的見直しの重要なデータとして活用されている。
- 重要施設の津波に対する安全性を評価するため、民間企業や国において活用。